

Club BUSINESS FARMERS

『農業経営者』読者の会 会報

CONTENTS

第32回定例セミナー報告

第33回定例セミナー報告

7~9月の定例セミナーご案内

7月の活動・参加申込書

Vol.22 2009年7月1日発行

■発行・編集/株農業技術通信社『農業経営者』読者の会 事務局(担当:長谷川)

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-18-25 康洋ビル9F TEL 03-3360-2697 FAX 03-3360-2698

第32回定例セミナー報告

農家のビジネスプラン作成術

〜農場の経営資源をいかして、市場ニーズに応えるために〜

5月25日開催の第32回定例セミナーでは農業生産法人ふじさん牧場副牧場長の藤田太一氏にお話をいただいた。藤田氏の前職は経営コンサルタント。企業再生のために山梨へ移住し、その風土に魅せられて転職。現在は宿泊施設を経営しながら体験牧場を併設し、各種体験の提供やカフェ運営、羊肉や乳製品の販売を行っている。当日はビジネスプラン作りについて、

発想のまとめかた、事業実現性の分析、書類への落とし込みかた、プレゼンテーションの方法などを、わかりやすい事例で解説いただいた。

例えばプレゼンテーションをするなら、はじめに誰に何をしたいか、その結果自分がどうなりたいかを明確にしておく。対象が銀行なら、支店長に新規事業の優位性や成長性を伝え、融資を実行してもらい、結果と

して自分が事業を起こすのが目的だ。一方、対象がA11グランプリなら、農業関係者やメディアが相手だ。ふじさん牧場の目指す世界観を伝え、夢がある事業だと感じてもらう、農業界に共感してくれる人脈を広げ、メディアに取材してもらうことが目的となる。

とはいえ、最後は人。VCなどでも最終的には、どんなに良いプランでもその人に魅力を感じられなければ資金提供には至らないことが多い。いかに自分がその事業への愛着を持ち、本気なのかという情熱を表現することが、最も肝心だと締め括った。

事業は何をやるかではなく、
誰がやるかです



セミナーDVD
7月10日
発売

農業生産法人ふじさん牧場 副牧場長

藤田太一氏

このままでは 日本のGAPは 世界で戦えない



日本 GAP 協会 専務理事兼事務局長 武田泰明氏

第33回定例セミナー報告

世界と日本のGAP最新情報

6月12日の定例セミナーでは日本GAP協会専務理事兼事務局長の武田泰明氏をお迎えし「世界と日本のGAP最新情報」と題してお話をいただいた。当日はGAPとは何かという基本的な解説に始まり、その取得で農場はどう変わるのか、そして国内の普及動向、さらに「読者の会」に向けて特別に、世界におけるGAP

P競争の本質についても話題を展開していただいた。

GAP競争の本質 世界標準化とは

世界のGAPはヨーロッパが先導しており、各国のGAPはグローバルGAPの同等性認証を得ることで自国のGAPの価

値を高めようと活発に動いている。しかしグローバルGAPの波及は裏を返せば「農場管理という仕事」に世界標準が作られるという話だ。

かつては品質の良い商品さえ作れば誰かが必ず買う、という時代だった。しかし今の時代には、標準というものがある。ただ単に良いものを作っても、標準に則していないと売れない、という時代になりつつある。

これはどういうことか。良い商品を作るだけでなく、標準をどこが握るかが重要な競争となるのだ。言語なら英語が世界標準。通貨は米ドル、ウェブはグーグル、TVゲームは任天堂、さらには柔道などのスポーツでも欧米人に有利なルールができつつある。この例を見れば、標準を握った地域や企業が競争優位に立っていることが理解できよう。逆に標準を握っていないと、運用の大幅な変更を求められたり、大きなリスクを抱えることもあるのだ。

そして今、世界のGAP情勢にも、同様な標準化が進んでいる。GAPに関する日本の発言力が弱いままだと、ヨーロッパの農業生産環境をベースに、ヨーロッパの小売業が開発したGAPで、日本の伝統産品である米やお茶の農場管理をしなくてはならないという可能性もあがあるだろう。

「日本は、世界最大の農産物輸入国。それにもかかわらず、農産物の安全性に

大きく影響する世界標準GAPの内容について、深く関与できていない。これでは日本の消費者に対して、食品関係者として十分な責任を果たせない、ということにもなりかねない」

価値の低いGAPの氾濫 日本はこれで良いのか？

日本の地方行政は、GAPをバラバラに作ることに夢中になっている。中には各JAGごとにGAPを作るように指導し、その研修を各地で開催、農水省がそれを資金的に援助している。

「農場管理の良さを評価できないバラバラのGAPに価値はあるでしょうか。結果的に手法として価値の低い、つまり役に立たないGAPが氾濫し、農業現場は大迷惑です」

一方、国内向けにはレベルの低いGAPでいいことにして、輸出向け農産物のみJGAPやグローバルGAPで対応すればよいという議論もある。「それでは日本の消費者に、みなさんはレベルの低い農場管理のもとで生産した農産物で良いですよ、ね」ということになる。それを誰が伝えるのか」

GAPが登場した現代は、農場管理の良し悪しが赤裸々になる時代だ。しかし、このままでは日本のGAPは世界で戦えない。GAPの普及を通して国産農産物の国際的な競争力を高めなければ、と氏は最後に述べた。

セミナーDVD
7月31日
発売

2009年7～9月 **定例セミナー** のご案内

第36回 **7月24日(金)** 16:00～18:00
 会場: (株)農業技術通信社内セミナールーム

トマトの価値をもっと高めるために ～野菜の機能性を追求する研究開発～

トマトを中心とした野菜加工食品メーカーであるカゴメ(株)。同社の総合研究所では今、トマトの価値をもっと高めていくための研究開発プロジェクトを進めている。トマトの成分が入った化粧品、トマトのうま味をベースにした調味料など、マーケットのニーズに応じて従来のトマトとは異なる用途や、機能性を追求する研究開発の最前線を解説する。

カゴメ(株) 常務執行役員

平岡泰樹氏 (ひらおか・やすき)



PROFILE

1944年福岡県生まれ。68年九州大学農学部卒業後、同年カゴメ(株)入社。92年商品企画部長、96年取締役を歴任。業務用ビジネス・ユニット・ディレクターなどを経て、01年常務取締役就任。東京支店長、総合研究所初所長を務めた後、現在は常務執行役員プロジェクトを担当する。

第37回 **8月7日(金)** 16:00～18:00
 会場: (株)農業技術通信社内セミナールーム

数字を利用した農業革命 ～他産業では当たり前前を定量化を農業で～

農業が他産業と同様の経済性を得るためには、数字による合理的管理が必須だ。しかし従来の農業技術では限界があり、数字を元にした技術に実用性はなかった。「必要な収量を、必要な時期に、必要な品質で得るためには、何が、いつ、どのように、どのくらい必要なのか」を数字で明らかにするJuncropシステムについて開発者の岡本信一氏に解説頂く。

(有)アグゼス 代表取締役社長

岡本信一氏 (おかもと・しんいち)



PROFILE

1961年東京都生まれ。日本大学文理学部心理学科卒業。北海道と埼玉での農業研修の後、2年間の派米農業研修を経てバイオニアハイブレッDJヤパン(株)入社。95年農業コンサルタントとして独立。98年(有)アグゼス設立。農業関連メーカーの技術顧問、農業法人や食品メーカーのコンサルタントを兼任している。

第38回 **8月28日(金)** 16:00～18:00
 会場: (株)農業技術通信社内セミナールーム

これも農業!! 私の顧客は動物園

京都府南山城村。バス会社すら撤退した山奥の山村で、全国で2つとない飼料ビジネスを展開する(有)クローバーリーフ。売るのは「動物園の飼料」。無農業で育てた牧草を刈りとり、ユーカリ、樫、竹などとともに届けるといふビジネスだ。「誰でもできそう」などと思ったら大間違い。そこには食うや食わずの苦闘から生まれた経営哲学と工夫があるのだ。

(有)クローバーリーフ 代表取締役社長

西窪 武氏 (にしくぼ・たけし)



PROFILE

1949年京都府生まれ。68年京都府立木津高校農業科卒業後、酪農業の法人に就農。その後1年間米国の農業実習に参加。帰国後独立して乾燥牧草ビジネスを開始する。84年から京都市動物園に生の牧草を納入して事業が本格化。現在は大阪・天王寺動物園など全国12カ所の動物園と取引がある。年商約5000万円。

第39回 **9月18日(金)** 16:00～18:00
 会場: (株)農業技術通信社内セミナールーム

業界の常識を変える ～野菜苗トップシェア企業の技術と経営～

野菜苗は農家が自家育苗してきたが、「接ぎ木」という付加価値と日本全国翌日着という仕組により、ベルグアース(株)は野菜苗の常識を変えた。さらにアースストレート苗やヌードメイク苗のように輸送コストを大幅に抑えた苗を、全国に供給することで更なる躍進を目指している。同社代表の山口一彦氏が、業界の常識を変える技術と経営を語る。

ベルグアース(株) 代表取締役社長

山口一彦氏 (やまぐち・かずひこ)



PROFILE

1957年愛媛県生まれ。96年(有)山口園芸を設立。2001年研究開発・営業販売部門を独立させ、ベルグアース(株)を設立、産学官連携による閉鎖型苗生産システムに関する研究を開始する。02年第10回国際園芸技術展にて貯蔵型ヌードメイク苗を発表。06年閉鎖型苗生産システム14基を導入し、現在21基で運用中。

第34回 **7月3日(金)** 16:00~18:00
 会場: (株)農業技術通信社内セミナールーム

(株)イソップアグリシステム 取締役部長

馬渡智昭氏 (もうたい・ともあき)

精密農業が拓く フードビジネスの可能性

(株)イソップアグリシステムの精密農業では、GPS測量した圃場地図をもとに土壌中の農薬や肥料のバラツキ、作業履歴、品質等のデータを収集し、可変施肥によって資材の過剰投与を抑えている。品質安定化や生産コスト低減、環境保全などの実現とともに、この技術を核として同社が展開するフードチェーンシステム構築事業にも視野を広げる。



PROFILE

2002年オホーツク地域の異業種交流の積み重ねから、農業者6名と企業6社の出資により(株)イソップアグリシステムを設立(現在は農業者7名と企業9社)。同地域の農業を競争力のあるビジネスとして確立し、精密農業や環境保全型農業を実現すると共に、安心で安全、健康な食を消費者に届けることを目指す。

●日程・場所が変更になりました
 第35回 **7月16日(木)** 16:00~18:00
 会場: 国立ファーム直営レストラン農家の台所新宿3丁目店

「Agrizm」編集長・全国農業青年クラブ連絡協議会会長

荻原昌真氏 (おぎはら・まさちか)

29歳の農業改革 !! 『Agrizm』で実現したいこと

農業の高齢化?担い手不足?僕たち農業青年は、世間から存在を意識されていないのか?農業とは、楽しくて、ドキドキして、厳しいこともある分、アツい。だからこそ若い人が大勢取り組んでいること、ビジネスチャンスを狙っていることを知って欲しい……農業の本当の姿を伝え、ネガティブイメージを払拭する29歳の農業改革を、『Agrizm』編集長が語る。



PROFILE

1979年長野県生まれ。大学卒業後、南信州ファーム荻原に入社、現在は農場長。経営面積は水稲40ha、小麦5ha、大豆12ha、ソバ3ha。オリジナルブランド米「やえはら舞」をはじめ、自家製パン・菓子等も販売する。08年から全国農業青年クラブ連絡協議会会長。09年新雑誌「Agrizm」を創刊、編集長。

◎ **セミナー参加申込・DVD購入**

月刊「農業経営者」
 定期購読者 **無料**

■参加を希望する項目に して、必要事項をご記入下さい。

〈セミナー〉	〈懇親会への参加〉	〈セミナーDVDの購入〉
6/12 (金) 武田泰明氏 終了	終了	<input type="checkbox"/>
7/ 3 (金) 馬渡智昭氏 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7/16 (木) 荻原昌真氏 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> (会費 5,000円)	<input type="checkbox"/>
7/24 (金) 平岡泰樹氏 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8/ 7 (金) 岡本信一氏 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8/28 (金) 西窪 武氏 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9/18 (金) 山口一彦氏 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

※セミナー受講料は定期購読者無料、一般参加者5,000円です。
 ※セミナー終了後には、懇親会(18:00~20:00)があります。(通常は会費1,000円、7/16を除く)
 ※セミナーDVDは1枚2,000円(税込)+送料100円です。DVDの発売はセミナー実施の翌月末です。

◎ **定期購読申込**

■いずれかに して、必要事項をご記入下さい。

- 1年(12冊) 18,000円**
送料サービス!
- 2年(24冊) 33,000円**
お得な3,000円割引!
- 3年(36冊) 45,000円**
お得な9,000円割引!

※本誌セミナー(年22回)参加料込(一般5,000円/回)
 ※本誌セミナー全音声ダウンロード(年22回)込(一般視聴不可)

お名前	会社名 農場名	TEL
E-mail	FAX	
<input type="checkbox"/> セミナー音声聴講パスワード希望		
ご住所 〒		

お申込方法 FAX 0120-410-359まで送信してください。
 (『農業経営者』HP <http://www.farm-biz.co.jp/> からもお申込できます)

お問合せ/(株)農業技術通信社「農業経営者」読者の会 事務局 TEL 0120-555-184

※セミナーへの無料参加は、定期購読1件につき、1名様までです。2名様以上でお申込される場合、2人目より2,000円をいただきます。予めご了承下さい。

※DVD、定期購読のお申し込みの方には代金引換にて商品をお送りいたします。商品受け渡しの際に代金をお支払い下さい。